

## T-12番 要約

### 1 被害者

匿名、住所地非公表。現在19歳の大学1年生。

### 2 ワクチンを接種する前の健康状態

服薬歴、通院歴はいずれもなし。学校もほとんど欠席なし。

### 3 接種 サーバリックス（2011年2月16日、3月22日、2012年1月7日）

### 4 接種後の経過

#### 2011年

1月 保健所及び学校の保健室からワクチン費用助成の案内文書が届く。

2月16日 サーバリックス1回目接種 腫れ、頭痛あり

3月22日 サーバリックス2回目接種 腕が上がらない

4月12日 息苦しさ、咳

6月20日 右目が見えなくなる

7月27日 左目も見えなくなる

7月31日 激しい頭痛

8月 首と喉のあたりに腫れ・痛み、全身の移動性の痛み

9月 痛みと脱力、呼吸苦、胃の調子の悪化

#### 2012年

1月7日 サーバリックス3回目接種 腕があがらない

その後頭痛、微熱、めまい、腹痛、吐き気を繰り返す

8月 再び目が見えなくなる

11月 耳の中の激痛

#### 2013年

4月 大学入学、一人暮らし開始

4月12日 全身の痛みで動けなくなる

6月 過眠

10月9日 記憶障害（道がわからなくなる）

現在めまい・立ちくらみ、痙攣・体の引きつりは常にあり、その他上記症状を繰り返す。

### 5 症状

筋肉痛、関節痛、全身の痛み、頭痛、腹痛、背部痛、疲労感、だるさ、全身のけいれん、息苦しさ、脱力、じんましん、下肢冷感、めまい、記憶力・判断力の低下、不眠・過眠、体重減少、むくみ、生理過多、生理痛、血が止まりにくい、手（指先）の皮がむける、聴力過敏、耳の中の急な痛み、足先・手先の冷感及び熱感（赤く火照る）、目（左右とも）が見えなくなる（視界が白くなる）

### 6 受診医療機関

11医療機関14診療科（診療科目：耳鼻科、内科、眼科、脳神経外科、神経内科、総合診療内科、小児科、麻酔科）

## T-12番 父

### 1 はじめに

私の娘は現在大学2年生で、実家から離れて一人暮らしをしています。娘は高校生の時にサーバリックスを3回接種し、その後様々な症状が出ました。それらの症状が、ワクチンによるものだとわかったのは、娘が大学に入学した後になってからでした。

### 2 ワクチン接種前の生活状況と接種後の症状

娘は、サーバリックスを接種するまで、至って普通の高校生でした。健康でほとんど病院にかかることもなく、中学3年の時に偏頭痛で病院にかかったことはあるものの、処方薬もなく、高校生になってからは発症することはありませんでした。学校を、休むようなことはほとんどありませんでした。

平成23年1月、保健所からワクチン接種費用助成の案内文書が届きました。また、娘が学校で保健室が作成した、費用助成の案内文書を受け取り、家に持ち帰ってきました。当時、副反応がないといったことが新聞に出ていたので、安全で癌が防げるならと考え接種させることにしました。

平成23（2011）年2月16日（当時16歳、高校1年）、1回目の接種を受けました。接種直後、接種した場所に強い痛みがあり、時間が経つにつれ腫れてきました。既に周囲の友達も接種をしていて、すごく痛いと言っていたことから、そんなものかと思い、娘も私も特に疑いをもちませんでした。

また、娘には頭痛もあったのですが、頭痛があったと言っている友達も多かったことや、風邪のような症状にも思え、そのときは風邪の症状の一部のように受け止めていたため、やはり疑問を持ちませんでした。

同年3月22日（当時16歳、高校1年）、2回目の接種を受けました。このときも1回目と同じような様子でした。毎回接種後は手が上がらないと言っていました。接種部位にはしこりができ、痛みとともに現在まで残っています。

2回目の接種から約3週間経過した同年4月12日、娘は息苦しさを訴え、咳をし始めました。肺炎ではないかと思い、近隣のA内科を受診し、レントゲンを撮ってもらいましたが、異常なしとのことでした。咳は喘息のような咳で1ヶ月くらい続きました。

同月18日と20日には、体調を崩して学校を欠席しました。咳も続いていたので、B耳鼻科を受診しましたが、原因はわかりませんでした。

同年5月6日、生理痛のため学校を欠席しました。これまで生理痛はあまりなく、学校を欠席することももちろんなかったのですが、サーバリックスを接種した後はずっと生理過多の傾向にあるようです。

### 3 目が見えなくなる（平成23年6月～7月）

娘は、同年6月20日に右目が見えなくなりました。右目が覆われた感じで真っ白になってしまったとのことでした。明らかにおかしいと思い、C眼科を受診し、視力検査及び視野検査をしてもらいましたが原因がわからず、D大学病院眼科を紹介されました。

同月22日にD大学病院で精密検査を受けましたが疾患は見当たらず、心因性のもので、受験のプレッシャーなのではないか、勉強が嫌なんじゃないの、などと言われました。ま

だ高2で受験勉強も本格化していませんでしたから、その説明には納得できませんでした。また、思春期の視力障害ではないかとも言われましたが、医師の説明では、思春期といっても小学生によく起きるようなものだったのでこれにも疑問を感じました。

D大学病院では、心因性と言われたものの、MRIの検査はしていませんでした。もしかしたら脳に病気があるのではないかと心配して、同年7月21日、脳神経外科のあるEクリニックを受診してMRI検査を受けましたが、異常はありませんでした。

同月27日になると、左目も見えなくなりました。右目に見えるようになることもありましたが両目ともに見えない時もありずっと学校は休んでいました。目の症状は10月頃まで続きました。

なお、目の痛みとともに頭痛もあり、同月29日には、F病院眼科も受診しています。

#### 4 激しい頭痛による救急受診（平成23年7月31日）と入院

同月31日、娘は激しい頭痛で動けなくなり、救急車を呼んでD大学病院に搬送されました。CT検査と血液検査をしたものの異常はないということで入院することはできず自宅に帰されました。鎮痛剤を処方されましたが、ほとんど効きませんでした。

翌日（同年8月1日）、F病院神経内科を受診し、MRIを撮りましたが、異常はなく、頭痛は続きました。

同月11日、首とのどのあたりに膨らみがあり、痛みが出ました。B耳鼻科を受診したところ、特に異常はなく、亜急性甲状腺炎ではないかと言われました。

その後同月16日から全身の痛みが始まりました。また、16日にはF病院眼科で視野検査を行いました。異常はないと言われました。

全身の痛みが始まり、歩くこともできなくなったため、G市民病院総合心療内科を受診し、これまでの経緯を説明したところ、即検査入院となりました。このときも両目は見えず、抜け毛や手足の痺れがありました。入院時からリリカとカロナールを処方され、31日にはハイペン錠が追加されましたが、処方された薬が効いているようには思えませんでした。

全身の痛みは移動性で、その時々で起こる場所が違います。ただ、背中だけは常に痛いと言っています。娘は、足の裏は針で刺されるような痛み、背中が叩かれたような痛み、頭は締め付けられるような痛みや殴られるような痛みという言い方をしています。

脳神経、内分泌等考え得る検査を行いました。いずれの検査でも異常がなく、「検査が終わって異常がないので治療することはない」と言われ、入院していても仕方ないので、そのまま退院となりました。

退院した後の同年9月14日に久しぶりに高校に登校しましたが、学校側から車いすの使用は不可と言われてしまったため、母親が付き添いで登校しました。このときの症状は、痛みと脱力が中心で、杖を持ち、母親が支えてなんとか移動していました。

G市民病院には、月1回程度通院して経過観察をしてもらっていましたが、背中や腰の痛み、呼吸苦、胃の調子の悪化など、様々な症状が出ていました。

#### 5 3回目のサーバリックス接種（平成24年1月7日）と多様な症状

平成24（2012）年1月7日、3回目の接種をしました。通院していたG市民病院で、今こんなに状態が悪いのに打っても大丈夫なのか尋ねましたが、今飲んでいる薬がステロイドではないから打っても大丈夫ではないかと言われました。自治体からの接種助成

との関係で無料であるうちに受けた方がよいと思っていたことや、接種間隔が気になっていたこともあり、受けさせることにしました。

接種する際にH整形外科でもこれまでの症状を伝え、3回目を接種してもよいか聞いてみたのですが、「院内に30分は残ってね」と言われるだけだったため、そのまま接種しました。このときは、娘の症状の原因がワクチンであるとは全く思っていなかったのも、接種してしまったのです。

3回目の接種後にも、これまで述べたのと同様の症状が出ていました。頭痛、微熱、めまい、腹痛、吐き気は常に繰り返しており、のどの痛みや咳も出ることもありました。そのためたびたび学校を欠席せざるを得ませんでした。同年3月頃に、右手親指の爪に黒い線が出現していたことに気づき、皮膚科にも通いましたが、結局今も消えずに残っています。これらに加え、同年8月には再び目が見えなくなり、同年11月には耳の中に激痛が生じるなど、様々な症状が代わる代わる出ていました。

ワクチン接種前は自転車で通学していましたが、症状が出るようになってから自転車に乗ることができなくなり、母親が車で送り迎えをしていました。体調が悪く学校を欠席せざるを得ない日が多かったため出席日数がぎりぎりになり、どうしても取っておかなければならない授業は無理にでも出席して、何とか高校を卒業できました。医師が心因性のものと言っていたせいで、担任の先生も精神的なものであるという反応で、症状を十分に理解してもらうことはできませんでした。

#### 6 大学生生活の始まりと直後の入院（平成25年4月）、ワクチンへの疑問

平成25（2013）年4月、娘は希望の大学に進学できることになり、一人暮らしを始めました。この頃は、医師から心因性のものではないかと言われていましたので、娘の希望に添うようにしてあげられればそれが治療にも繋がるかもしれないと願うような気持ちもあって送り出しました。

しかし、大学生生活を始めてすぐの同月12日、娘は全身の痛みで動けなくなりました。処方されていたカロナールも効かない状態で、なんとか地元に来て帰ってきました。同月25日には38度の熱がでたので、市の救命センターを受診させました。

同年5月17日の朝、母親がテレビを見ていて、報道番組で症状の出ている他のお子さんのことを報じていたのを見て、まさに娘と同じだと思ったのがきっかけで、これまでの様々な症状が子宮頸癌ワクチンによるものだと思い当たりました。

これまでも、原因不明の痛みについては色々と検索していましたが、娘の症状に合うものに行き当たりませんでした。しかしこの番組を見た時には、まさにこれだと思ったのです。それで被害者連絡会にすぐに電話をしたのです。

#### 7 再度の入院、ドラッグチャレンジテスト（平成25年5～6月）

退院後は大学に戻りましたが、手足の痺れや痛み、背中の痛みが続き、めまいやふらつきも始まる、しゃっくりが止まらないなどの症状が始まる、同年5月24日に大学の体育祭を見学した後、再び地元に戻ってきました。

翌25日には呼吸困難となり、食事も飲み込むことができず、手足のしびれや痙攣、背骨や関節の痛み、筋肉痛、膝下や足裏の痛み、手の脱力などが現れ、27日にG市民病院総合診療内科及び神経内科を受診したところ、翌日から入院検査となりました。血液検査、レントゲン検査、脊髄検査、神経伝導検査、頭部・頸部・背部MRIを実施しましたが、

いずれも異常はありませんでした。

6月には、同病院麻酔科でドラッグチャレンジテストを行い、4回目のテストが少し効いたため、同月26日からその時に使用したデュロテップMTパッチを使用することになりました。同月28日に退院し、その後主治医の勧めで鍼治療を始めましたが、その直後、意識がなくなってしまい、パッチの使用を中止しました。

もともと良くなったから退院したというわけではありませんでしたので、自宅に戻ってからも娘はずっと寝ていました。起きていられず自分の意思とは無関係に寝てしまうという感じで、呼びかけにも反応せずずっと寝ているような状態でした。

退院後あまりにも状況がよくならないので、G市民病院に疑問を投げかけ、同年7月11日、D大学病院を紹介してもらいました。同月28日から入院して8月25日までの間、神経内科に入院して検査を重ねました。血液検査、骨髄検査、MRI検査を実施し、リハビリも行いましたが、結局異常なしということで退院せざるを得ませんでした。なお、同月15日には国立精神・神経医療センター病院の佐々木先生を受診し、ワクチン後のマクロファージ性筋膜炎に該当する症状であると言われました。

その後、学校の始まる同年9月末まで実家で過ごしました。この頃まで過眠の症状は続いていました。

## 8 記憶障害の出現

D大学病院の先生からは、通学している大学の近くで通える病院として、I病院を紹介していただきました。母親も付き添ってI病院を受診した同年10月9日、娘に記憶障害が現れました。駅から自宅に戻る道が急にわからなくなってしまったのです。その時は下宿先にいた母親に、駅を降りたがどこに行っていないかわからないと電話が入ったため、迎えに行ったら事なきを得ましたが、翌日には、降りる駅がわからなくて乗りすぎてしまいました。その後は、娘は自分で地図を書いて、危ないなと思ったら見るようにしていると話しています。一人暮らしをしているのでとても心配しています。

思い返してみると、一人暮らしをはじめた頃にも、買い物に行ったが何を買って帰るのかわからなくなったことがありました。もともとほんわかした雰囲気の子なので、冗談で言っているのかと聞き流してしまっていました。また、娘が「時間がわからない」と言っていたことがあり、この時も冗談かと思っていました。しかし長い針と短い針がどちらなのかわからず、実際に時計が読めなくなっていたのだそうです。

計算も遅くなりました。特に引き算は難しいようです。集中力に欠け、テストを受けているときに突然記憶が飛ぶこともあり、ふと気づくと5分～10分経っていて、その間何をしてたかわからないということが何度もあったそうです。まだ高校生の頃から、実は記憶障害が出ていたことを、後になって知りました。

## 9 I病院での診療と体調の変化

現在の自宅から通えるところということで、I病院の紹介を受け、平成24年10月から定期検診に通っています。担当医からは、子宮頸癌ワクチン後慢性疼痛、慢性疲労症候群と診断されました。現在に至るまで、ビタミン系の薬（シナール（ビタミンC）、ノイロビタン（ビタミンB））を処方され服用しています。

しかし、多彩な症状は続き、目が開けられないほどまぶしくなったり、睡眠障害のため1時間おきに目が覚めてしまったり、のどの痛みやめまいが出たりしています。12月1

7日には、急に鼻血が止まらなくなり、夜中に娘から電話がかかってきました。粘膜が弱くなっているのか、口の中もよく切れてしまうようで、歯磨きしても血がでやすいようですし、口内炎も常にできています。耳の中も体液が出やすいようです。血が出ると止まりにくく、手の指先の皮が剥けてしまって治りません。蚊に刺されると異常に大きく腫れるなど、体質が変わったと感ずることもあります。

同年12月26日、娘が帰省してきました。帰省した時から既に咳が止まらない状態で、年が明けた平成26（2014）年、近隣のA内科を受診しましたが、胸の音には異常がないとの診断でした。しかし、学校に戻っても咳がとまらなかったため、I病院を受診したところ、肺炎と診断されました。

## 10 現在の病状と生活状況

これまで述べたような症状は常に入れ替わり立ち替わり現れているといった感じです。

1月24日及び30日には足の痙攣を起こし転倒しました。一人暮らしを始めてから、転ぶことがよくあったようです。突然足に力が入らなくなり、転んでしまうのです。また、鼻血がよく出るため、耳鼻科でCT検査をしましたが特に異常はありませんでした。頭痛やめまい、関節痛も現れており、体のどこかに痛みのない日はありません。

親元を離れて1人で生活をしていますので、密に連絡を取るようになっています。朝起きたときと、大学から帰宅した時に、必ず電話をさせるようになっています。具合が悪いという電話があると母親がかけつけるようになっています。そういった時は食事も取れないので、1週間くらい滞在し、起き上がれるようになってから帰るようになっています。娘が実家に帰ってくることもあります。

大学に行けない日も多く、学業になかなか専念できないのですが、夢を持って進学したので頑張っているようです。親としてはできる限り思うようにやらせてあげたいという思いもあります。しかし、昨年は大学を休みがちで1年留年せざるを得ませんでした。

I病院には、母親が上京して付き添い、月1回は受診するようになっていますが、積極的な治療はできていない状況です。担当医の先生は、現在の症状は、ワクチンがきっかけであることは間違いなく、その後自律神経の乱れもあり、様々な症状が出ているのではないかとおっしゃっています。これまで色々な先生に見ていただきましたが、初めて見る病態だからといって身体表現性障害だと決めつけたり、精神科を勧められたりということが続いていました。今の先生は、精神的なものと決めつけずに娘のことを理解してくださっています。

医療費や移動にかかるお金もかさんできて、更に大学も留年となってしまう生活費と学費が余分にかかります。当初は娘もアルバイトをするつもりでいましたし、母親もパートに出るつもりでしたが、二人とも娘の症状のためにできなくなってしまい、経済的にはかなり厳しい状況です。

## 11 おわりに

私は、娘の症状は、このワクチンが原因だと思っています。本心は、元の体に戻して欲しい、ただそれだけです。それができるのであれば、もう何も望みません。

いろいろな症状が次々にでて生活に重大な支障がでています。しかし、適切な検査や治療が行われていません。本人が一番辛いことは間違いありませんが、両親と本人の3人の将来がつぶされてしまって希望がなくなっています。私たちが年をとり、また親亡き後の

ことまで考えると、一人っ子の娘は誰も頼れる人がいなくなってしまうので心配です。また、地方に住んでいると情報も少ないので、サポートの拠点が近くにあると助かります。

こういったことが、全く検討されないまま、ただ取り残されていくことに不安を感じています。娘の被害を明らかにすることで、少しでも子宮頸がんワクチンによる被害を知っていただき、今後の検討につなげていただきたいと思います。